

平成30年度松本市スポーツ推進審議会会議録

1 日時

平成31年3月18日(月) 午後1時から2時15分

2 場所

松本市総合体育館 大会議室

3 次第

開会

会長あいさつ

協議事項

松本市スポーツ推進計画の評価・検証について

ア 基本的数値目標の状況

イ 松本市スポーツ推進計画に関連する市の事業等

報告事項

第2回松本マラソンの結果報告及び第3回の状況について

第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会について

その他

閉会

4 出席者

委員

吉田勝光会長

安藤久治委員、笠井幸司委員、久保田文章委員、川上雅子委員、原義美委員、

小林務委員、柄澤深委員

事務局

寺沢和男文化スポーツ部長

スポーツ推進課：堀洋一課長、上條泰正課長補佐、塚田喜代志課長補佐、

輪湖稔課長補佐、花村憲二係長

5 議事録

(上條泰正課長補佐)

ただ今から、平成30年度松本市スポーツ推進審議会を開会いたします。

本日、司会を務めます事務局の上條泰正と申します。よろしくお願いいたします。

なお、本審議会は、松本市情報公開条例35条の規定により、原則として公開するものとしていたします。

本日の審議会でございますが、大池委員と小松委員が都合により欠席となっております。

また、市川副会長におかれましては、長年にわたり松本市のスポーツ振興にご貢献いただいていたと思いますが、去る3月12日に誠に残念ではございますがお亡くなりになられました。心よりご冥福をお祈りいたしますとともに、皆様にご報告申し上げます。

それでは、平成30年度松本市スポーツ推進審議会の開会にあたり、吉田会長からごあいさつを申し上げます。

(吉田勝光会長)

こんにちは。本日はお忙しい中、お出でいただきありがとうございます。市川副会長におかれましてはご冥福をお祈りしたいと思います。市川副会長は、皆様のお手元にあります、松本市スポーツ推進計画の策定にあたりまして、大所高所からアドバイスをいただいて、出来上がったものです。改めてご冥福をお祈りしたいと思います。

さて、今日の審議会にあたりましてご挨拶申し上げたいと思います。この1年でショックだったのは松本マラソンが中止になったことで、非常に残念でした。今年は、事前にマラソンのポスターをもらい、参加者を募りたいなと思います。

2つ目は、V C長野トライデンツが松本市と連携しまして、スポーツ推進計画にも書いてありますように、プロスポーツとの連携で、既に山雅と連携しているわけですが、そちらの方が一つできたのも非常に良かったのかなと思います。

3つ目は何を言いましても、松本山雅のJ1昇格ということで、おめでとうございます。私の学生が是非山雅の試合を見たいと言ってくれました。また別の学生は、松本山雅と川崎フロンターレが地域貢献ランキングで1、2を争うことから、2つを比較した卒業研究しておりました。

それから、スポーツ推進計画の方ですが、現在、国土館大学の副学長入澤という先生が、スポーツ指導の仕事とか、スポーツ指導に当たる方々のための指導手引きを収めた本を作っておりまして、その中に1つの地方スポーツ推進計画のモデルとして、松本市のスポーツ推進計画を入れさせていただくことになりました。これは私が入れましようと言ったわけではなく、副学長の方から入れたらどうですかと提案していただき、非常に嬉しく思っております。今日の審議会は、この1年を振り返って、来年1年を見据えるというような会議にしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(上條泰正課長補佐)

ありがとうございました。

次に議題に移ります。会議の議長を本審議会条例第6条第1項の規定に基づきまして、吉田会長をお願いいたします。吉田会長よろしく申し上げます。

(吉田勝光会長)

それでは、協議事項として、「松本市スポーツ推進計画の評価・検証について」議題にしたいと思いますので事務局の方でよろしく申し上げます。

(塚田喜代志課長補佐)

事務局スポーツ推進課の塚田喜代志と申します。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。私の方から説明申しあげます。着座にて失礼いたします。

お配りしてございます、「松本市スポーツ推進計画」、この冊子の9ページに「基本的数値目標」を3項目掲げておりますが、その状況についてご説明いたします。

お手元の「資料1」をご覧ください。

計画では、平成25年度の数値を現状とし、5年後の平成31年度の計画目標を設定しております。まず、「年間体育施設利用者総数」でございますが、平成29年度は、264万8千952人となっており、25年度に対し、0.8%の減。31年度の目標に対し、91.3%の達成率となっております。

次に、「スポーツ教室参加者数」でございますが、平成29年度は、2万249人となっており、25年度に対し、16.8%の増。31年度の目標に対し、106.6%の達成率となっております。また、「継続的なスポーツ活動」につきましては、平成29年度は33.1%となっており、25年度に対し、13.4%の減。31年度の目標に対し、62.5%の達成率となっております。

なお、「継続的なスポーツ活動」につきましては、市で毎年行っている「市民満足度調査」の数値となっておりますが、平成29年度の調査は、調査対象年齢を限定して行い、20代、30代のみの数値となっており、これまでのすべての年齢を対象にした調査と異なっていることから、大きな減少になったと考えております。

しかしながら、来年度の「市民満足度調査」は、全ての年齢を対象にした調査に戻すこととなっておりますので、来年度の数値において、評価をしていただきたいと思います。

(吉田勝光会長)

ありがとうございます。今も説明がありましたように、平成29年度の「継続的なスポーツ活動」についての割合が低くなっています。それについては対象が20代、30代のみということでした。それも含めてご意見等ございましたらお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

【委員からの意見・質問無し】

(吉田勝光会長)

それでは、続きまして、次の説明に入りたいと思います。

資料2、3の関係で、「松本市スポーツ推進計画に関連する市の事業等」について事務局から説明をお願いします。

(塚田喜代志課長補佐)

「資料2」をご覧ください。

こちらは、「松本市スポーツ推進計画」に関連する事業を体系ごと一覧にしたものです。

平成30年度の実施事業と、平成31年度の実施予定事業を記載してございますが、黒ポツは、平成29年度以前から実施している事業で、二重丸は、新規及び単年開催の事業でございます。

なお、市の事業のほか、松本体育協会や指定管理者の自主事業なども記載しております。

また、複数の項目に関連する事業は、それぞれの項目に記載しておりますのでご承知ください。事業の数が多いため、本日は二重丸の事業を中心に主なものを説明いたします。

まず、スポーツ推進計画の「基本目標 五つの柱」の1つ目、「生涯スポーツ推進」、基本施策が「スポーツによる人の健康づくりの推進」、個別施策が「まつもと元気アップ体操の普及」につきましては、

平成30年度、新たに「元気アップ体操」周知の取り組みをしております。1つが、残念ながら中止となってしまい実施はできませんが、松本マラソンのファミリーランの準備体操を元気アップ体操としました。平成31年度も継続します。

2つ目が、公民館主事会での紹介をし、市内35地区ある公民館での普及促進を図っております。

次に、その下の個別施策、「勤労世代へのスポーツ環境の提供」ですが、平成30年度は、青少年ホームで新たに「ウォーキングサッカー体験」や、「ホームスポーツDAY」として、社会人になって運動する機会が減ってしまった方などを対象に、運動不足解消やスポーツを通じた交流を目的に、毎月2回、ソフトバレーやバドミントンなど実施しております。

また、平成31年度の項目に記載しておりますが、松本ヘルスラボにおいて、これまでの個人の会員だけでなく、企業の会員を募るため、企業として従業員が利用できる運動や講座等のメニュー、プログラムを平成30年度から開発しており、31年度には提供を始める予定でございます。

次に、その下の個別施策、「健康づくり事業と協力した市民の体力維持・健康増進機械の提供」ですが、

今井地区において、平成30年度からニュースポーツ体験や健康測定を行う「いまいスポーツ健康フェスティバル」が開催されております。

また、その右の「スポーツクラブ連携事業」は、市と連携するスポーツクラブで、国保被保険者が、健康づくりのために体力測定を行い、継続した運動支援を受けた場合に補助をする事業を31年度から実施するものです。

次に一番下の個別施策、「プロスポーツやオリンピックなどの選手による健康増進事業の展開」でございます。このあとの項目にも出てまいります。地域交流活動促進事業として、これまで、サッカーの松本山雅FC、また、野球の信濃グランセローズと連携して、運動教室や交流などを行う事業を行ってまいりましたが、これらに新たに加え、30年度には、バスケットボールの信州ブレイブウォリアーズと連携して、松本開催のホームゲームの際に、小学生の「バスケットボール教室」や、保護者・指導者向けの「栄養指導講座」を実施しました。

また、31年度には、バレーボールの国内最高峰V1リーグに参戦している、VC長野トライデンツと連携して、「バレーボール教室」や「運動機能向上講座」などを実施する予定

となっております。

それでは、次に2ページをご覧ください。

個別施策、「近隣大学及び学生との連携による施策の展開」ですが、2つ目の二重丸、「あそぼーる松本プロジェクト」につきましては、松本市野球場の指定管理者を中心として設立した団体に、松本大学硬式野球部の協力を得て、保育園・幼稚園を巡回し、子供たちに楽しくボール遊びを体験させ、幼児期に必要な運動能力を身につけるもらう取り組みを始めております。31年度には、松本大学の女子ソフトボール部の協力も得て実施することが決まっております。

次に、2つ下の個別施策、「個人参加型スポーツイベントの開催」ですが、「ワンバウンドふらばーるバレー大会」をスポーツ推進委員協議会において市からの委託事業として開催いただきました。昨年度まではウォーキングイベントを開催しておりましたが、今年度から、運動が苦手な方でも楽しめる「ニュースポーツ」の普及・促進のため、新たに実施しております。

続いて、3ページは、各地区や指定管理者における新たな事業や、これまでに説明した事業などが記載されております。

続いて、4ページをご覧ください。

上から3つ目の個別施策、「地域コミュニティづくりの推進」ですが、中央地区において、地域交流による活性化を目的に、「山雅を応援する会」を立ち上げ、その活動の一つとして、「山雅ウォーク」と題し、山雅に触れる機会として、アルウィン周辺をウォーキングし、その後、試合観戦をするイベントを開催しております。

続いて、5ページをご覧ください。

上から2つ目の個別施策、「障害者へのスポーツ支援」でございます。芳川地区において、パラスポーツ体験会を開催し、シッティングバレーとポッチャの体験を実施しております。また、一番下の個別施策、「市の主催するイベント等への障害者スポーツ導入の検討」ですが、スポーツ推進委員協議会と共催して毎年開催している「ファミリスポーツカーニバル」を、今年度は拡大して実施し、ニュースポーツやトランポリンなどの各種スポーツ体験に加え、障害者スポーツのコーナーを設け、多くの方に体験いただきました。また、松本市の波田出身で、平昌オリンピック、アルペンスキー日本代表の三澤拓選手による講演も併せて実施しております。

その下の項目ですが、先ほど少し触れましたが、松本山雅FC地域交流活動促進事業において、「ブラインドサッカー体験」を実施しております。

続いて、6ページをご覧ください。

大きな柱の「2 子どものスポーツ活動の推進」に入ります。上から3つ目の個別施策、「プロチームやオリンピック等の選手の協力によるスポーツに関心を持つ環境づくり」として、平昌オリンピック、スピードスケートで見事に金メダルと銀メダルを獲得した小平奈緒選手への「市民栄誉賞授与式」に併せ、「平昌オリンピック報告会」をまつもと市民芸術館で開催しました。応募多数でやむなく抽選で選ばれた多くの子供や市民など、約2千人の方が来場され、地元スケート選手の子供達と交流するなど、盛大な報告会となりました。

続いて、7ページをご覧ください。

一番上の個別施策、「小中学校の教員では対応できないスポーツ種目への積極的支援」ですが、運動部活動改革の一環として、中学校における持続可能な運動部活動のあり方を研究するため、松本山雅FCと連携し、「松本山雅コーチの派遣による運動部活動の支援」の実証事業を行っております。

7ページの中段から、大きな柱の「3 競技スポーツの推進」に入ります。一番下の個別施策、「市民がプロスポーツを観る、応援する、支える等、関わりが持てる環境づくり」では、黒ポツの1つ目ですが、「松本山雅FCパブリックビューイング」を、市ではシーズン中に5回開催しました。今年度は、人通りの多い松本駅前広場や花時計公園など、すべて屋外で開催しましたところ、通りすがりに立ち寄って観戦される方がとても多くおり、山雅FCの快進撃も後押しして、昨年度の倍以上となる4千人を超える方に観戦いただきました。

また、先ほど説明しました、地域交流活動促進事業において、30年度は信州ブレイブウォリアーズの松本市総合体育館で開催されたホームゲームを「松本市民デー」とし、市内の園児・小中学生を無料招待したところ、800人を超えるお子さんにプロの試合を観戦いただきました。31年度には、VC長野トライデンツのホームゲームでも「松本市民デー」を開催し、同様の取り組みを実施したいと考えております。

続いて、8ページをご覧ください。

大きな柱の「4 スポーツ活動の環境整備」に入ります。個別施策、「既存スポーツ施設の維持、補修等の設備整備」ですが、松本市野球場、総合体育館、サッカー場において、施設の老朽化に伴う、改修工事を実施してまいります。

次に、下から3つ目の個別施策、「スポーツ活動中の事故による被害者を防ぐための、様々な機器の整備」ですが、AEDが氷点下の状況でも使用できるよう、施設管理者が常駐していないスポーツ施設について、保温ボックスを計画的に設置しております。

続いて、9ページをご覧ください。

一番上の個別施策、「人が集まるコミュニティを利用した効果的な情報発信」として、松本山雅さんからご提供頂きました「ガンズくんお知らせボード」を総合体育館の入口に設置し、試合予定や結果などをお知らせし、松本山雅FCを応援する機運を高める取り組みをしております。また、昨シーズン見事にJ2で優勝され、優勝記念として受け取られた「シャーレ」や「トロフィー」を市役所のロビーに展示させて頂き、多くの市民に見て頂きました。

続いて、9ページの下段から、大きな柱の「5 スポーツによる地域の活性化の推進」に入ります。10ページをご覧ください。一番上の個別施策、「様々なスポーツ大会、イベントの誘致」ですが、大きなイベントとして、今年の8月に「大相撲松本場所」が、ここ松本市総合体育館において開催される予定となっております。

この資料の説明は以上でございます。

ご覧いただきましたとおり、今年度は、障害者スポーツの普及促進に繋げる取り組みや、プロスポーツを活用したスポーツ振興の取り組みを積極的に行っております。特に、松本市のスポーツ振興に大きく寄与している松本山雅FCが、今シーズンからJ1に参戦しており、今後益々、スポーツによる地域活性化が大きく期待されるところでございます。

続きまして、「資料3」をご覧ください。

この資料は、平成30年度に市に対して、事業の共催及び後援の許可申請がございましたものを、一覧にしたものです。2枚目の一番下の欄外に合計件数を記載してございますが、昨年度の同時期が、66件でしたので、昨年度より増えている状況でございます。

事務局からの説明は、以上でございます。

(吉田勝光会長)

ありがとうございました。

先ほどのスポーツ推進計画の方でも、プロスポーツによる地域活性化などがかなり強化され、進んでいるという風に感じております。

それから、共催・後援の許可申請の関係ですが、中には名前だけというところもありますが、イベントとか団体によっては、市の後援を得られる、市と共催できるというのは参加者に対してのインパクトが強いというケースもあるため、是非今後も積極的に努めてもらえたら良いと思います。

今の報告について、ご意見等ありましたらお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員からの意見・質問無し】

(吉田勝光会長)

私の方から1つよろしいでしょうか。久保田委員にお伺いしたいのですが、松本市の小中学校の部活動等の関係で、どのような状況になっていきますでしょうか。活性化とかの観点からご意見いただければありがたいと思います。

(久保田文章委員)

昨年あたりから、県の方で、部活動の望ましいやり方ということで話をしており、指導者の予算の関係も絡んできて、非常に難しくなっています。昔のように、土曜日、日曜日、平日に、いろんな大会に出ることが規制され、できなくなっている現状があります。ただ、県としては望ましいスポーツの在り方という視点で、ただ抑えるだけでなく、どのようにするのが望ましいかという考えになってきていて、松本市でもそれを受けながら、具体的に、あまり無理のない範囲で中学校中心に作ってきております。

子供たちの状況ですが、昔のように、中学にきて、新たなスポーツを始めるといった子供たちが非常に少なくなってきました。サッカーあたりは、どの中学校も非常に人数が多いです。学年に10~20人はいます。それ以外の部活においてはどちらかというと部員がいないという状況です。結局小学校の頃やっていた運動・スポーツをそのまま中学に行って部活でやっていて、今まで全くやっていなかった子供たちが、中学に来てから新たに始めるということが非常に少なくなってきました。ですので、運動をやらない子はやらないし、やる子供たちはスポーツ教室だとか、いろんなところで動いているという両極端な状況に変わってきていると思います。ですので、もう少しその辺の視点をどうやってもってくるのか、そ

の現場で専門的にやらせるのも良いと思いますが、それ以外に、子供たちの体づくりの視点から考えてみると、初めて中学に来て部活動に入る、そこでできる範囲で精一杯やっていくという、そういった子供たちをもっと作っていかないといけないと考えています。以上です。

(吉田勝光会長)

ありがとうございます。

長野県の部活動の対応というのは、全国的にも、もちろん文部科学省も注目していて、私が先ほど紹介しました、今作っている手引書とかまとめたものにも取り上げるという方向に進んでいます。

サッカーというのは、ボールを蹴ればある程度動けるといところが非常にやりやすく、幼稚園くらいからみんなで楽しめると思います。ところが、野球は難しくてあまり楽しめないといったところがあり、スポーツの性格がかなり影響しているかなと思います。スポーツをやる観点の他は、ボールを蹴ったりなんかして楽しむといったところが非常に良いのかなと思います。今後学校では、難しい局面にあり、やらせたいけどやらせようがないということがあると思います。

ほかにもご意見等あればお聞きしたいと思います。

(安藤久治委員)

スポーツ少年団の色々な団体の状況はどんな感じかお聞きしたいと思います。

(笠井幸司委員)

チーム数はサッカーが多いですが、全体的にスポーツ少年団に加盟している子供たちは年々減ってきています。サッカーが圧倒的に多いです。ただ、スポーツ少年団としてこれから考えていかないといけないのは、小学校に入って、サッカーなどのチームに入るわけですが、それが本当に子供に適しているのかではなく、「友達がやっているから自分も入りたい」という子供が結構います。しかし、小学生の時は1つの競技に偏らないで、できるだけいろんなスポーツを経験した方が良いという考えがあります。その経験した中で、僕はバレーが合っているとか好きだとか、中学に入った時点で勤めれば良いと思っています。全員がサッカーやバレーなどの部活に入るわけではないため、入らない子供たちも気軽に参加できる、遊びでも良いからそういう場をいかにして設けようかと考えています。中学の部活だと練習量が多く、ついていけなく厳しいということもあるため、半分遊びで気楽に競技ができるような場を作り、そして中学に行って自分たちが経験した中で、競技を絞ってやれば良いのかなと思います。

(吉田勝光会長)

バレーボールやバスケットボールは授業の中にもありますよね。同僚のバスケットボールやバレーボールを指導している教員は、授業でやっているけど、やはりやる場は少なく、ただサッカーが多いと言っておりました。

あと、ほかにいかがでしょうか。

【委員からの意見・質問無し】

(吉田勝光会長)

よろしいでしょうか。

それでは、次に移りたいと思います。「第2回松本マラソンの結果報告及び第3回大会の状況について」報告を受けます。事務局から説明をお願いします。

(花村憲二係長)

松本マラソン事務局の花村憲二でございます。座らせて説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

お手元の資料4という1枚の紙をご覧ください。最初に第2回松本マラソンのご報告をいたします。昨年の9月30日、日曜日に開催予定でしたが、台風24号の影響を考慮して、中止とさせていただきます。お手元に白い「松本マラソン公式報告書」というのがございますが、その29ページをご覧ください。「大会開催中止のお詫びと今後の対応」ということで、29、30と付けてございます。中止に至った経過を説明いたしますと、前日29日、土曜日に、陸上競技場の方に大会本部を置きましたので、そちらで天気予報等とにらめっこしておりました。日曜日の午前中は台風の影響もなく、暴風域にも入らないということで、開催の準備をしておりまして、夕方6時ちょっと前にJRさんから、日曜日の午後から特急を計画運休するという連絡が入りまして、事務局、実行委員会で集まり、JRさんがストップしてしまうとレースを走ったのは良いが、松本駅にシャトルバスで行ったら電車が動いていなかったということになってはいけなないので、夕方6時30分くらいに中止という結論を出しまして、インターネット、大会ホームページの方では、午後7時に中止という報告をさせていただきます。中止の報告が午後7時ということで、苦情の電話も土曜日、日曜日合わせて300件程来ましたが、ご了解をいただいた次第でございます。中止になった関係で、参加者の皆さんには、完走した時にお配りする大きなバスタオル「フィニッシャータオル」というものを、ここに載せてあるお詫びの文章と一緒に10月末までに、まず県外の申込者約8千人に送らせていただきました。松本市内の申込者が約1,500人いましたが、タオルは完走率から換算して、8千枚弱しか作ってございませんでしたので、追加注文をし、それが出来上がってから、12月の中頃までにフィニッシャータオルを送らせていただきました。あと、30ページの方に書いてございます、各給水所とか給食所で出す飲食類の関係ですが、10月1日に市内の保育園、福祉施設等に配らせていただきました。

次に(2)のエントリー数ですが、報告書の27ページをご覧ください。申し込んでいただいた方のデータですが、マラソンの部の方は、9,416人でした。定員が1万人でしたので、600人弱定員に達しませんでした。申込者の関係ですが、県内が46.7%、県外が53.3%という、県外の方が少し多いような状況でございます。27ページの右側には、県内の市町村別のデータも載せてございます。松本市から1,528人。あと、長野市、塩

尻市等の数字が多くなっております。海外からは59名の方のエントリーがございました。年代別で言いますと、27ページの一番下の表にございますが、40歳代が31%、次に50歳代が25%というような状況になってございます。28ページの方は、ファミリーランの部のデータが載っております。ファミリーランの方は、定員が250組でしたが、262組の応募がございました。

次にボランティアの関係ですが、4ページをご覧ください。4ページの左下の表ですが、スタート会場からフィニッシュ会場等のボランティアの携わっていただく予定の人数が書いてございます。4ページの上の地区と書いてありますが、全部で15地区になっておりますが、松本市のコース沿道の14地区の皆さん、ボランティア、地区から出ていただきました。それから塩尻市の吉田地区からもボランティアさんを募り出ていただきました。地区にお願いしている理由というのは、コース整理のボランティア、給水所のボランティア等で、他地区から来ていただきますと駐車場等の問題がありますので、できるだけ近くの方たちをお願いしたいということで、松本市の14地区、それから塩尻市の吉田地区の皆様をお願いしてございます。それから、企業でボランティアに出していただいた15企業ですが、スタート会場、コース中の給水所、それからフィニッシュ会場等でお手伝いしていただいております。あと、松本大学、塩尻市の丘中、吉田小学校等、15の学校の皆様にもご協力いただいております。次の30団体ですが、松本市の体育協会をはじめ、30の団体の皆様にもご協力をいただいております。一番下の応援団体ですが、コース途中、スタート会場からフィニッシュ会場まで、25の団体の皆様に応援をしていただく予定でございました。ボランティアの総数ですが、3,786人の方たちのご協力をいただくようになっておりました。

次に2番目の「第3回の松本マラソン」の状況についてご説明いたします。3月2日、土曜日からエントリーの受付を開始してございます。大会の申込要項ですが、皆様のところにはマラソン、ファミリーランの要項をお配りしておりますが、昨年と大きく違っておりましたところは、マラソンの制限時間を5時間30分から30分延ばしまして、6時間にしてございます。第1回の大会の時に完走できなかった方たちが多くいました。8,600人ちょっとがスタートしまして、フィニッシュできた方たちが80%ということで、ちょっと完走率が低かったので、制限時間を30分延ばしてできるだけ完走率を上げようということで、6時間にしてございます。第1回大会の記録を参考に換算しましたら、1,100人程多く完走できるのではないかとということで、そうなると92%ほどに完走率が伸びます。制限時間6時間で今年は開催したいと思っております。コースは、第1回、第2回と同じでございます。ファミリーマラソンの部の方は昨年第2回大会と変わってございません。スカイパークの陸上競技場をスタートして、陸上競技場の周りを2km走ってフィニッシュするというコースでございます。

現在のエントリー状況ですが、そこには3月14日の状況が書いてありますが、今朝の状況はマラソンの方が4,882人、ファミリーランの方が185組となっております。今日の夕方、明日には5千名を超えるという状況です。昨年中止になった影響、それから、同じ10月末に金沢マラソンと富山マラソンが11月から10月に移ってきたという影響もあると思いますが、昨年よりちょっと悪いエントリー状況でございます。マラソンの部、ファ

ミリーランの部とも、6月の末が締切りとなっておりますので、しっかりPRをして、定員1万人と250組になるように、しっかり募集をしていきたいと思っております。

(2)のボランティアの募集状況ですが、大会ボランティアの方も3月2日から募集を開始してございます。昨年出ていただいた地区、企業、学校、団体それから応援団体の皆様にはお声がけをして、第3回大会へのご協力もしていただくつもりでございます。今日の夕方から、庄内地区を皮切りに、地区へのお願いに出かけるようになっております。ボランティアの募集状況は以上です。第2回松本マラソンの報告と第3回のエントリー状況等について説明を終わらせていただきます。

(吉田勝光会長)

ありがとうございます。

何かご意見等はございますでしょうか。松本マラソンに直接関わられた方は委員の中にはおられませんでしょうか。走ったとかでも結構です。

(安藤久治委員)

団体として関わりました。

(吉田勝光会長)

何かその中で出たご意見とかございますでしょうか。

(安藤久治委員)

第1回の時に沿道の交通整備のボランティアをしました。第1回ということで、住民の方に周知ができていなくて、迂回路の案内がスムーズにできなかったということがありました。第2回はその辺も考慮していただき、地区の住民の方にも周知していただいてスムーズにいったのではないかと思います。第3回はどうなるか分かりませんが。

それと、いろんな地区のマラソン大会が同じような時期にあるということですが、松本マラソン自体が魅力的な大会になれば、他所へ行かず、「松本に行こう」となっていければ良いなと思います。

(吉田勝光会長)

ありがとうございます。

私の方からですが、苦情の電話が300件ほどあったということですが、どのような内容多かったでしょうか。

(花村憲二係長)

一番多かったのは、日曜日の午前中は台風の影響もなくできるという考えだったものから、問い合わせの電話がかかってきても、「予定通り行きます」という受け答えをしていました。それが、JRさんの方から連絡がありまして、急遽中止ということになったもの

ですから「話が違うじゃないか」という苦情が一番多かったです。こちらの反省点でも、こまめにホームページの方に状況を流していけば良かったという反省もございます。それから中止を決定してから、ボランティアさんとか関係各所には電話で連絡したものですから、中止になることをしっかり考えておけば良かったのですが、中止になることはほとんど考えずに準備をしていたので、もう少し中止の対応等もやっておけば良かったかなと思います。今年は消防の方とも話をし、防災無線を使わせてもらうとか、中止になった場合に、ボランティアさんたちに速やかに連絡が届くような手筈を考えていなくてはと思っております。あと、中止にして、フィニッシャータオルは配ったのですが、完走メダルが欲しいという方も結構いまして、完走メダルは実際走って完走していただいた方にお渡しするというので、第2回にエントリーした方で、第3回に出ていただいて完走した方には第2回のメダルも一緒にお渡しするというので、ホームページの方にも載せてあります。こういったことをしていきたいと思います。以上です。

(吉田勝光会長)

ありがとうございます。

私は夜の10時くらいにたまたまスマホを見たら中止になっていたのですが、先ほどの話だと夜6時か7時くらいには決まっていたのですね。当初、当日の5時に決着をつけるという判断だったですね。ところが、運悪くというか、当日の5時に判断していれば当然やったなというような判断が出て、なおかつ、その日は曇っていて風もなく絶好のマラソン日和だったというようなこともあって、おそらくそういった点で不満が残ったのではないかなと思います。主催者側としては非常に苦渋の判断だったと思います。人によっては電車が止まっても当然走るからやってくれば良かったのにと意見もあったと思いますが、この反省を来年度というか今年度に生かしてやっていただければと思います。

あと、参加者からすると、お金を出してその替えといったのがどうなったのかという苦情はありませんでしたか。どうでしょう。

(花村憲二係長)

大会要項には「天候等で中止になった場合には返金はしない」と書いてあるのですが、「お金返せ」「参加料返せ」という方もかなりいました。中止になったのだから、参加者の多くの方は「お金は浮いたのだろう」といった考えですから、使わないから、余っているから返せという方が非常に多かったです。お金の面をお話ししますと、直前まで、99%は準備をしていましたので、逆に中止になったことで余計にかかるお金というのも発生しました。昨年度の収支をお話ししますと、繰越金が1,500万程あったのですが、700万ちょっとくらい使ってしまった、去年第2回だけで考えるとちょっと赤字になってしまったというような会計でございます。人件費の警備員のお金も中止にはなったのですが、ガードマンさんたちの日程を予約してあるので、ガードマンさんたちは来なかったのですけれども、100%お支払いしてございます。ですから、中止になったからお金が浮いたということではなく、逆にかかってしまったという状況です。

(吉田勝光会長)

数字をできれば参加者の方にも分かっていたら、分かる方法があれば良いのかなと思います。

あといかがでしょうかね。

(久保田文章委員)

学校関係ですけれども、第1回松本マラソンの時、学校の方からも話が出てたと思います。中々お話しする機会がないので、承知だけしていただければと思います。松本マラソンは10月の最初の日曜日というように決まっています。この土曜日と金曜日は、松本また塩尻、この近辺ほとんどの中学校が文化祭をやります。ここで中学生の子供たちは吹奏楽も含めて燃え尽きます。そして「はー、疲れた」と言って日曜日を迎えます。その時に「吹奏楽出てきてください」と言われ、これについてはどうするかということで、私もちょうど第1回がスタートする時に私も中学校にいましたので、参加するのかもしれないのか、だいぶ問題になりました。ただ、市でやることなので「出来る限り協力しましょう」ということ出たわけですけども、来年度は10月6日ということで、たぶん1週間前に文化祭が各学校行われると思いますので、これは良かったなと正直ホッとしたところです。今後、10月の第1週の日曜日ということで決まっていますとすれば、これは仕方がないとは思いますが、中学校の方は苦しい状況が続いて、またなにか検討する機会があれば参考にいただければと思いますので、よろしく願いいたします。小学校の方は、特に大会等ありませんので、十分協力できるかなと思います。そのようなことをご承知おきください。

(原義美委員)

自分もランニングクラブとかスポーツジム等での指導をさせてもらっているの、かなり多くの方が松本マラソンを楽しみに前日までメンテナンスされていました。です、中止になったことが残念という声もお聞きしましたが、実際自分もイベント等を企画したりして思っているのは、中止にすることは決して悪いことではないと思います。特に陸上競技は雨が降っても何してもやるというのが前提で行われているので、中止になるという概念がなかったのですが、あまりにも台風という天災に近いものがたまたま来てしまったなと正直思っています。1番言われたのが、当日の5時に判断するとホームページに出していたものが、自分もフェイスブックでずっと確認していて、夜7時くらいに突然中止というのが出たので、その時点で自分の知る限りの会員さんにはメールで中止になったと送りました。前日も早く寝てしまって、そういった状況を知らずに迎えたという方も数多くみられたなと思います。それを受けてその後も中止にする大会が全国的にも続出したなという記憶があり、いつ判断するというのを前々から言っておけば、混乱は逆に無かったのかなと正直思っています。「陸上競技の雨が降っても何が起きても中止にしない」という陸上競技経験者の一般常識みたいなものが、一般の方が参加する大会には通じないという気持ちでいいといけないなと改めて思いました。それは自分も気を付けないといけないと思いました。中

止に対していろいろ言う人は何言っても言います。やればやったで、「帰れなかったじゃないか」と絶対言われるなと思って、やっても地獄、やめても地獄、すごく辛い状況だったなと思います。本当に人が集まらないと言って、いろんな大会に行ってお人集めをする姿をずっと見ていたので、本当に気の毒だなとしか思えなかったですけど、言いたい人は何言っても言うと思っていた方が良いのかなと思います。責める気持ちは、僕は全然ないです。

ちょっと話は変わりますが、先日、「春の松本ランニングフェスティバル」が開催されたということですが、実際会員の方がそこにも沢山行かれて、応援に行ってきました。凄く良い大会で、松本の環境を使った松本らしいイベントだなと思いました。スカイパークがあって、飛行場があって、競技場があって、体育館があって、マラソンにこだわらなくても、走るということで、市民の健康を増進させたいとか運動習慣をつけたいということが企画の根本的な考えであるなら、主要な大会は3月には重ならないので、そこを発展させるのも松本の特徴かなと思いました。そうすると、道路の都合とかもいろいろ問題が解決されてくるのかなと思いましたし、ボランティア人数も少なくて済むので、そんなのも発展させていけば良いと思います。今年はどんどん増えてきて、3千人の参加とお聞きしていますが、まだまだ許容範囲が広がって、もっとも大きくなれる大会かなと感じました。そちらの方も発展していくと良いなと思います。

(吉田勝光会長)

ありがとうございます。

川上委員の方から自転車競技なんかにも参加されているということで、そういった点からもご感想なんかいかがでしょうか。

(川上雅子委員)

私は、第1回の大会は参加させていただいて、第2回は他の競技のスケジュールと合わなかったのでエントリーはしていませんでした。私はトライアスロンもやっていますけれども、前日の段階で中止とか数日前から中止というのはよくあることなので、中止になって当然だなと思いました。テレビの報道であの1週間はいろんな大会が各地で中止になっていた時期だったので、やったらやったで「誰か怪我したらどうするの」ということを考えますと、「当然中止でしょ」という風に思っていましたので、「まだやるって言っているんだ」というくらいの感覚でした。企画したらやらなきゃいけないというのではなく、世の中の流れとか、これが5年前とか10年前とかなら「なんでやらないの?」という人が多かったかもしれないですが、これだけ災害とかが起きている時は、安全第一に考えて、「中止するのが半分ですよ」というくらいの感覚で、「また来年来てね」という意味で、参加する人も企画する人もやっていくというのが良いのではないかと思います。これは「エントリーして走っても具合が悪くなったら途中で止めましょう」というのと同じ考え方だと思います。必ずやらなきゃいけない、必ず完走しなきゃいけないというのは、愚かな考え方だと思いますので、今回の判断は的確な判断だったと思います。

(吉田勝光会長)

ありがとうございます。

それでは小林委員さん、コンベンション協会の関係でいかがでしょう。

(小林務委員)

マラソンのことと言えば、私どもは外から人を呼び、松本にお金を落とさせていただくというのがベストなところなのですが、天気による判断というのは致し方ないという部分があり、他人事ながらそういう風に思っていました。ただ、お泊まりいただくホテル、施設の方からは中止になったことによって「お客様からキャンセル料がとれない」という嘆きも随分聞きまして、ご理解いただきたいと言うしか方法がなかったです。今年、来年と参加者がどんどん増えていくことをただただ祈るばかりでございます。私どもはコンベンション協会ですので、施設とかグラウンドの使用状況というのが、大変埋まっていて、特に週末なんかは取りにくいというような部分もあります。スポーツコミッションを市で立ち上げて6年になりますが、今後どういう風にやっていくかというのは、松本の自然環境を生かした自転車関係だとか、あるいは大変素晴らしいトレイルコースもありますので、そういったものを使ったり、ウォーキングとか施設を使わずに楽しんでいただけるようなイベントの構築を考えております。

(吉田勝光会長)

ありがとうございました。

なんとか今年は定員に達して、なおかつ天気が良くて、ということに期待したいと思いません。

それでは次の議題に入ります。「第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会について」ということでよろしくをお願いします。

(塚田喜代志課長補佐)

私の方からご報告をさせていただきます。

「資料5」をご覧ください。

2027年に長野県で開催される運びとなった、「第82回国民体育大会」及び「第27回全国障害者スポーツ大会」の主会場となる「総合開閉会式会場」と「競技会場地市町村第1次選定」の状況等について、報告いたします。

経過でございますが、平成29年の7月18日に長野県開催が内々定したことに伴い、本市では、地域の更なる活性化とスポーツ振興に資するものと考え、11月24日に松本広域の3市5村及び3市の体育協会が連携して県知事に主会場誘致の要望いたしました。その後、長野県準備委員会において審議を重ね、昨年11月9日に誘致活動が実を結び、「総合開閉会式会場」は、松本平広域公園の陸上競技場に決定しました。主な選定理由は、4に記載のとおりでございます。また、40種目ほど予定されている開催競技の競技会場地について、第1次選定として、11の市と町、14競技が決定しました。このうち松本市は、「陸

上競技」が選定されております。

今後の取組みとしましては、競技会場地の選定において、陸上競技以外に複数の競技団体が松本市での開催を希望しておりますことから、今年6月に予定されている第2次選定に向け、県の準備委員会事務局や競技団体と協議を進めております。また、今後、様々な課題や取り組みが必要となることが想定されておりますが、大会の成功に向け、県と協力して準備を進めて参ります。

説明は、以上でございます。

(吉田勝光会長)

ありがとうございます。

ただ今の報告について質問等ございますか。

(安藤久治委員)

松本が主会場になることは大変嬉しいことですが、陸上競技場は改修をするというのでしょうか。

(堀洋一課長)

今、その改修の方向性につきまして、県の施設になりますので、県で4月以降に調査事業ということで、どういった形で国体に向け改築するのか、あるいは、全く造り変えて新しいものにするのかすべて含めて今後検討に入ると聞いております。具体的にどうかというのはまだですが、間違いなく今のまま何も手を入れずに開催ということはございませんので、一定の改修あるいは改築をされると考えております。

(吉田勝光会長)

よろしいですか。

ほかにご意見等ございましたらお願いします。

【委員からの意見・質問無し】

本日の議題は以上でございます。この際、委員の皆さんから全体を通して、ご意見等ありましたらお願いしたいと思います。せっかくお越しになられてまだご意見を言われてない方がおられますので、ご意見をお聞きしたいと思います。柄澤さんお願いします。

(柄澤深委員)

松本山雅の柄澤でございます。日頃は松本山雅FCに松本市をはじめ、地域の皆様に多大なご協力いただきまして本当にありがとうございます。この場を借りて御礼を申し上げます。松本山雅FCに関しては、先ほど会長からのご挨拶にもございましたように、地域貢献の部分に非常に重きを置いて活動をさせていただいております。その中の取組みとして、

今後前向きに、松本市のスポーツ行政のご要請や課題みたいなものがありましたら、一緒に解決するための何かしらの役を担っていきたいと思っておりますので、僭越ではございますけども、そんなことを念頭に置きながら、地域のスポーツ全体の底上げも含めて今後も頑張っていていきますので、引き続きよろしく申し上げます。以上です。

(吉田勝光会長)

ありがとうございます。

山雅につきましては、スポーツ庁でスポーツによる地域活性化の漫画シリーズを作成し、その中に山雅の漫画もあり、学生のテキストにしてレポートを出させ、最終試験としました。再度J1に上がって、これからどうなっていくか楽しみです。ぜひ頑張っていたきたいと思えます。

これで議題は終わりましたので、私の任を解かせていただきます。事務局の方よろしく申し上げます

(上條泰正課長補佐)

吉田会長をはじめ委員の皆様、慎重なご審議ありがとうございました。

次にその他でございますが、事務局から1件ございます。

(塚田喜代志課長補佐)

冒頭にご報告申しあげましたが、市川副会長がお亡くなりとなりましたことに伴い、本審議会の副会長が不在となりました。審議会条例第5条に基づき委員の互選により副会長1名を選出する必要がございますが、体育協会選出委員が現段階で未定のため、体育協会から委員を推薦いただきました時点で、あらためてご相談させていただきたいと考えておりますので、ご承知くださいますようお願いいたします。以上でございます。

(上條泰正課長補佐)

その他、皆様から何かございますでしょうか。

特に無いようですので、これを持ちまして、本日すべての案件は終了いたしました。

ただ今をもちまして、平成30年度松本市スポーツ推進審議会を閉会といたします。

どうもお疲れ様でした。